

上部頸椎専門 ⑥

カイロプラクティック 臨床レポート

日本上部頸椎カイロプラクティック協会正会員 吉成 剛*

上部頸椎一箇所のアジャストメントによる身体の変化を臨床例から報告しています。今回は様々な好転反応を経て、改善されていく患者さんの症例です。

臨床におけるルールは以下のとおりです。

1. 病気・症状の診断、治療は行いません。
2. 必ず検査を行い、上部頸椎のサブラクセイションの有無を確認します。
3. 検査の結果、上部頸椎にサブラクセイションがなければ、アジャストメントは行いません。
4. 他の療法との併用、健康器具を使用しないで様子を見て頂きます。

※上部頸椎専門カイロプラクティックにおける好転反応とは・・・

上部頸椎のアジャストメントにより脳からの神経伝達が悪くなると、現在気になる症状、過去に怪我をして完全に治癒してい

ない処、以前調子の悪かった処などに何らかの反応が出る場合があります。

これは様々な治療法でみられる刺激過多（ドーズオーバー）による反応・薬の副作用とは全く異なるものであり、身体の再建現象にて感じる反応です。中にはアジャストを受ける前よりも反応で辛い思いをされて悪くなったのではと不安になる方もいらっしゃいます。例えて言うならば、水道工事を思い浮かべてみて下さい。工事中に一旦水が濁ったり、断水したりします。このような事は工事中に起こる現象と知っているの、断水してもそれほど心配しません。時期が来れば良くなると知っているからです。水道管の劣化が進んでいけば濁り水も増え、断水時間も長引くかもしれません。身体の再建も同様です。身体の状態が思っている以上に芳しくなく、薬の多用などで

*吉成剛（よしなり・つよし）

●連絡先：吉成カイロプラクティックオフィス
〒253-0021 神奈川県茅ヶ崎市浜竹2-1-9 湘南ドリームパレス203号
TEL&FAX: 0467-58-6065
協会HP: www.specific.jp

日常的に負担を掛けている場合は反応が長引き、辛い思いをされる場合もあります。

しかし、改善の過程に起こる現象ですので、強制ではないのですが反応に対しての治療、鎮痛剤の服用はせず、出来るだけ我慢して頂いて様子をみられる事をアジャスト前に説明し、納得された上でアジャストを受けて頂きます。

□症例□

色々な好転反応と共に改善した女性

性別：女性 年齢：28歳 職業：会社員

来院3日前に腰の激痛。膝に水が溜まった(受療したが良くならない)。他に手足の冷え・情緒不安定・8年位前から頭痛が辛い(降圧剤の注射を打たないと治まらない)・最近、視力が落ちてきた(1.5→0.1)・生理不順・トイレと入浴中に激しい後頭部痛で立てなくなった事がある(受療したが原因不明)・身体の柔軟性がないという状態で来院されました。

初回・来院1回目 2006.11.1

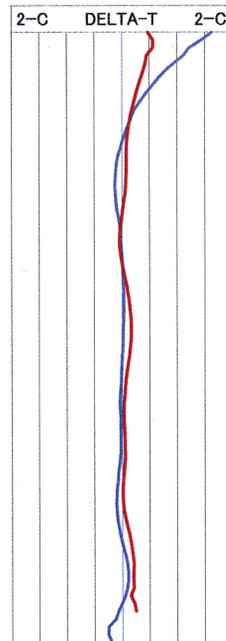
●アジャスト前の検査

伏臥にて左足が1.5cm短い。
仰臥における両手挙上にて左手が2cm短い。
立位の前屈時に腰全体に痛みがある。
立位の左右側屈時に腰全体に痛みがある。
仰臥にて右足首のみが外旋(つま先が開いている)。

上部頸椎リステイング AIRでアジャストして休息用ブースで65分間休んでいただく。

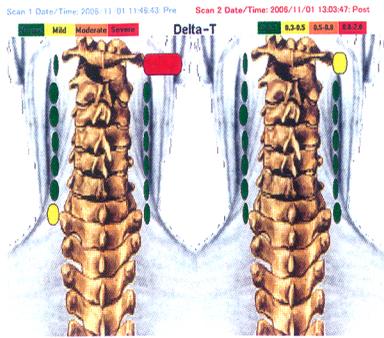
●アジャスト後の検査

伏臥にて足の長さが揃う。
仰臥における両手挙上にて手の長さが揃う。
立位の前屈時に腰全体の痛み→消失。
立位の左右側屈時に腰全体に痛み→消失。
仰臥にて右のつま先が開いている→左右ほぼ揃う。

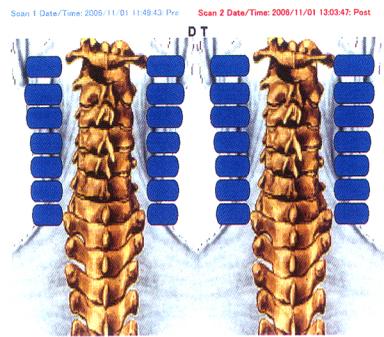


青はアジャスト前、赤はアジャスト後の波形を示す

上部頸椎部の右カーブパターンが消失している。

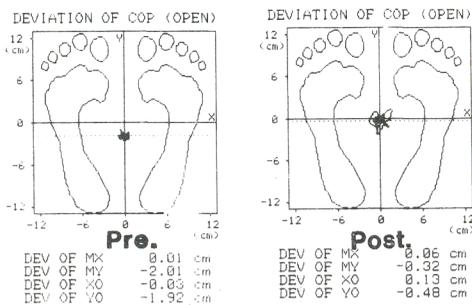


初回
アジャスト前 アジャスト後



初回
アジャスト前 アジャスト後

皮膚温度が上部から下部まで上昇し左右及び上下の温度差も有意に減少した。



初回
アジャスト前 アジャスト後

アジャスト前、左後方に位置した重心がアジャスト後は右前方へ移動している。

※アジャスト前：左足が1.5cm短い状態で左側に重心があった。

アジャスト後：足の長さが揃うと重心は右側移動している。

この患者さんの場合は再びサブラクセイション下に戻ると左後方に重心がくる傾向にある。

アジャスト後の説明において、時間の経過と共に色々と身体に反応が出てくる可能性を伝え、心配であれば連絡して頂くように伝え、暫く様子を見て頂くこととなる。

その後、電話にて好転反応の経過報告がありました。

- 11月3日(アジャスト2日後)：両膝に激痛が出てきた。微熱が続いている。吐き気があって食事が摂れない。両腕の筋肉が痛む。
- 11月4日(アジャスト3日後)：腕の痛みは治まった。微熱はある。後頭部がドクドク痛む。
- 11月8日(アジャスト1週間後)：すべてが随分、楽になってきた。

2回目2006. 11.15

アジャストより2週間後

●検査

伏臥にて左足が1cm短い。

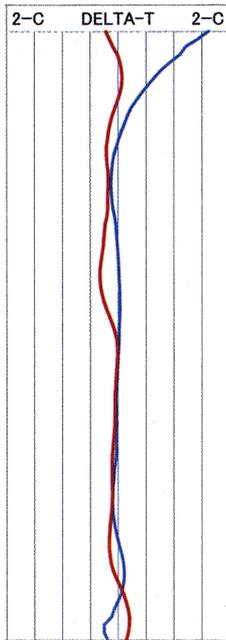
仰臥における両手拳上にて右手が1cm短い。

(アジャスト前の検査と左右逆で数値も

減少)

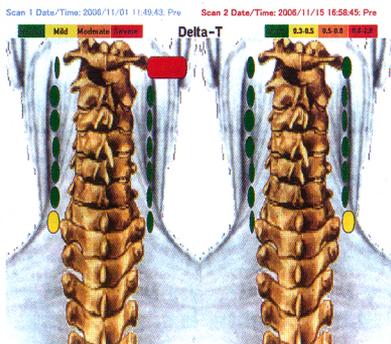
いずれの動作において、腰の痛みがなくなる。

仰臥にて右のつま先が開いている→左右揃う。



青は初回時のアジャスト前、赤は今回の波形を示す

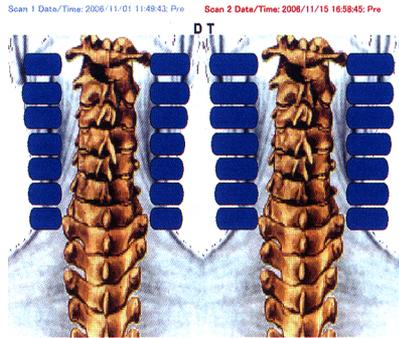
・右カーブのパターンが出ない。(前回アジャスト後と同じパターン)



初回時データ 2回目 今回のデータ

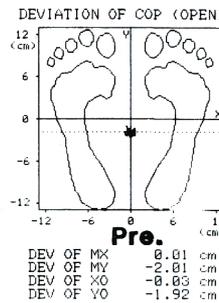
(サブラクセーションパターン)

・左右の温度差も出ていない。

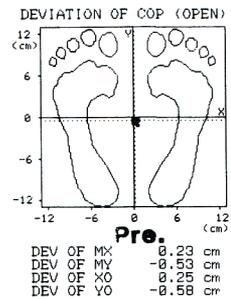


2回目 初回時データ 今回のデータ

・皮膚温度も下がっていない。



初回アジャスト前のデータ



今回のデータ

・前回アジャスト後と同様、右前方に位置している。

以上の結果、サブラクセーションの再現は確認されなかった。

2006.11.15 アジャストせず

12月20日に経過報告の電話を頂きました。

- ・頭痛がなくなり、すっかり調子が良い。
- ・食欲が出てきた。(甘いものが食べた)

なった)

- ・生理もそれほど辛くなく、ペースも徐々に整ってきた。

～施術者コメント～

症例の患者さんは仕事がハードで休みも十分にとることも出来ない状況が続いていて、激しい頭痛が頻繁にあり辛かったそうです。そこに腰の激痛が起きて、病院で良くならないため、我慢ができず紹介にて来院されました。

頭痛が起きる原因が除去されずに、単に薬や注射で症状を治めていたため、逆に余計な負担を身体に対して長期間掛けていたと思われます。

アジャストメント3～4日後に現れた辛い症状（発熱、吐き気、頭痛→いつもと違い後頭部がドクドク痛む、両膝痛、両腕痛、膝痛等）はすべて、それまで身体に掛かっていた負担が解除され、かつ治癒力が発揮

された時の好転反応でしょう。

実際、その後2回目の検査時やその後に頂いた電話にて、沢山あった全ての辛い症状は無くなり、すっかり元気になりました。

「このカイロプラクティックを受けなくて、あのまま薬や注射だけが続けていたらどうなっていたかと思うとゾッとする。」とご本人も話していました。

また、当初訴えに無かったO脚も自然に改善されていることに気付かれました。これは上部頸椎の位置が姿勢の歪みの根本原因である証明の一つといえるでしょう。このように上部頸椎カイロプラクティックは、カイロプラクティック本来の「脳からの神経伝達の妨害を取り除き、自然治癒力が発揮されるようにする。」ことのみで、症状・病気が治癒し、その結果、身体はもとより、心も健康になれることを証明しています。

上部頸椎カイロプラクティック —哲学・科学・芸術—

賀来史同著／トム・ジェラルディー推薦・序文／エンタプライズ刊行
A4判／438頁／定価21,000円（税込）

頸椎1番、2番、いわゆる上部頸椎だけを微調整することにより、人間が生来持っているイネイトインテリジェンス（自然治癒力）を活性化させるというカイロプラクティックの理論体系を、特にB.J.パーマーのH.I.O.ホール・イン・ワン学説を忠実に実践できるよう細大漏らさず詳述。



原因はひとつ 健康の鍵は上部頸椎

高橋祐一郎著／B6判／290頁／定価2,100円（税込）

上部頸椎のみをアジャストの対象とするスペシフィックカイロプラクティックによって、大きな成果をあげている筆者による力作。約3年にわたって『月刊手技療法』に連載された臨床例に加え、スペシフィックカイロプラクティックが分かりやすく解説されている。



申込み問合せ：たにくち書店 フリーダイヤル 0120-811-813 フリーFAX 0120-811-817